

# 子供を対象とした景観まちづくり ワークショップの効果 ～ 布師田小学校での実践をもとに～

1090460 高松 伸太郎

高知工科大学工学部社会システム工学科

高知市立布師田小学校にて小学校景観まちづくり出前授業を実施し、参加した児童の景観に対する意識の変化を知るために、事前アンケートと事後アンケートを実施した。その結果、授業を受ける前に比べると景観意識が向上していることがわかった。

**Key Words : 子供、景観まちづくりワークショップ、アンケート調査、景観に対する意識変化**

## 1. はじめに

### 1.1. 研究の背景

高知市では、2005 年度より、これからの社会を担う小学校の子供たち（児童）を対象に、地域の「景観」について意識する機会として、小学校景観出前授業を実施している。

本研究は、嶋岡強太 2008「こどもを対象とした景観まちづくりワークショップのモデルの設計」（修士論文）をもとに小学校景観出前授業のモデル設計の授業を受けた児童が得た学習効果を検証し、評価を得る必要があることから、2008 年度に高知市立布師田小学校にて小学校景観出前授業を実践した。

### 1.2. 研究の目的

本研究の目的は、嶋岡が研究した子供を対象とした「景観まちづくりワークショップ」のモデルの設計をもとに実証する。

その結果から「景観まちづくり学習」を、学校教育の中で活用できる子供を対象とした「景観まちづくりワークショップ」のモデルの検討を行うことが目的である。

### 1.3. 研究の方法と構成

#### 1.3.1 研究の方法

研究の方法は、2005～2007 年に行った「小学校景観出前授業」の実施結果から設計されたプログラムをもとに実証する。

そして、2008 年度に行った布師田小学校景観出前授業の実施結果を記したアンケート調査結果と感想文をまとめ、子供を対象とした「景観まちづくりワークショップ」のモデルの検討を行う。

#### 1) アンケート調査の方法

児童が小学校景観出前授業を受ける前に自分（児童）たちが住む地区の景観に対する意識をアンケート調査し、第 1～4 回の小学校景観出前授業を受けた後の景観に対する意識をアンケート調査する。

この事前と事後のアンケート調査により授業を受ける前と後の児童自身の景観に対する意識変化を知る。

#### 2) 小学校景観出前授業アンケート

##### アンケート調査の質問の設定

今回布師田小学校で実施したアンケート調査は、質問内容を本来良いと考えられることの反対の間違った内容で作成した。

反対の間違った内容にした理由は、最初から良いと考えられる内容で作成してしまうと、児童はそのまま何も疑問を感じないままで 5. 「そう思う」を選択してしまうからである。

よって、1. 「全く思わない」と 2. 「あまり思わない」が質問に対して選択してほしい項目である。

#### 3) アンケート調査の配布・回収方法

##### 事前アンケート調査

事前アンケート調査は児童が小学校景観出前授業を受ける前の段階の景観意識を調査する。この事前アンケートは 2.1. 第 1 回「建築と風景のデザイン」時のオリエンテーションにて実施した。

回収方法は教壇に回収 BOX を設置し、休憩時間に回収 BOX へアンケート用紙を提出。

##### 事後アンケート調査

事後アンケート調査は第 1～4 回の小学校景観出前授業を受けた後どのように児童が景観に対する意

識が変化したのかを調査する。

この事後アンケートは第4回「まちなみ景観発表会」の授業終了時に体育館にて実施した。

回収方法はアンケート用紙に記入が終わった児童から回収BOXに提出。

#### 4)感想文の方法

第4回「まちなみ景観発表会」にて児童が発表した第1～3回目までの小学校景観出前授業で児童が感じたことを記した感想文から、景観に対して具体的にどのように考えるようになったかを知る。

#### 1.3.2. 研究の構成

アンケート(事前)集計を児童が小学校景観出前授業を受ける前に実施し、アンケート(事後)集計を第1～4回の小学校景観出前授業を受けた後に実施して、事前と事後のアンケート調査を比較して分析する。

そして、第4回「まちなみ景観発表会」にて児童が発表した第1～3回目までの小学校景観出前授業の感想文から、景観に対して具体的にどのように考えるようになったかを分析する。

これらのアンケート結果から小学校景観出前授業の効果を整理する。(図:1.1 参照)

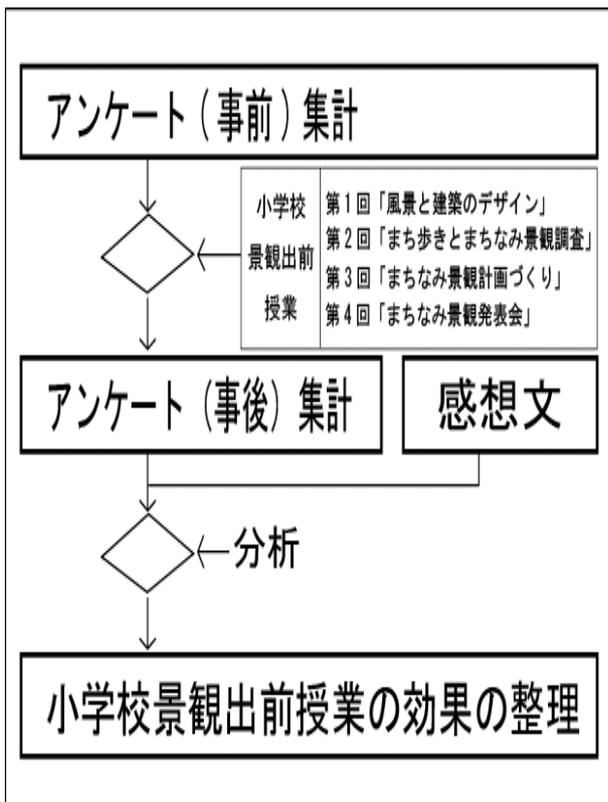


図 1.1 : 研究構成フローチャート

## 2. 布師田小学校でのワークショップの概要

2008年に高知市立布師田小学校で実施したプログラムと日程、参加人数は以下の表(表:2.1 参照)の通りである。

表 2.1: 実施概要

実施小学校	高知市立布師田小学校
対象学年	5学年(19名)
実施プログラム及び実施日	第1回「建築と風景のデザイン」 参加人数: 18名 2008年5月30日 10:50 ~ 12:30
	第2回「まち歩きとまちなみ景観調査ワークショップ」 参加人数: 19名 2008年6月6日 9:45 ~ 12:30 14:00 ~ 14:45
	第3回「まちなみ景観計画づくり」 参加人数: 19名 2008年6月16日 9:45 ~ 12:30 14:00 ~ 14:45
	第4回「まちなみ景観発表会」 参加人数: 19名 2008年6月30日 14:10 ~ 15:40

## 3. アンケート調査の結果

アンケート調査の配布・回収数と回収率、男女比率は以下の表(表:3 参照)の通りである。

表 3: フェイスシート

項目	単位	事前アンケート	事後アンケート
配布数	枚	18	19
回収数	枚	18	19
回収率	%	100.0%	100.0%
男女比率	男(人)	10(55.6%)	11(57.9%)
	女(人)	8(44.4%)	8(42.1%)

### 3.1. 景観出前授業の効果～事前と事後の比較から～

#### 3.1.1. 「放置されているゴミは、地域の風景(景観)を悪くしている」

「放置されているゴミは、地域の風景(景観)を悪くしている」は、「とてもそう思う」「そう思う」の両方で授業を受ける前は88.9%(16人)であったが、授業後は89.5%(17人)と、0.6ポイント増加した。

特に「とてもそう思う」の授業前は50.0%(9人)であったが、授業後は84.2%(16人)と34.2ポイント大きく増加しており、ゴミの放置は地域の風景(景観)として良くないと思うが児童が増えた。(図:3.1.1 参照)



図 3.1.1: 「放置されているゴミは、地域の風景(景観)を悪くしている」の事前から事後のアンケート結果

### 3.1.2. 「電柱や電線は、布師田地域の風景（景観）を悪くしている」

「電柱や電線は、布師田地域の風景（景観）を悪くしている」は、「とてもそう思う」「そう思う」の両者で授業を受ける前は33.4%（6人）であったが、授業後は84.2%（16人）と、50.8ポイント増加した。

特に「とてもそう思う」の授業前は5.6%（1人）であったが、授業後は36.8%（7人）と、31.2ポイント大きく増加しており、道路での電柱や電線の地中化の必要性を学んだことで、地中化の方法が良いと考える児童が増えた。（図：3.1.2参照）



図 3.1.2：「電柱や電線は、布師田地域の風景（景観）を悪くしている」の事前から事後のアンケート結果

### 3.1.3. 「つぎはぎになっている道路は、景観上良くない」

「つぎはぎになっている道路は、景観上良くない」は、「とてもそう思う」「そう思う」の両者で授業を受ける前は38.9%（7人）であったが、授業後は79.0%（15人）と、40.1ポイント増加した。

特に「とてもそう思う」の授業前は11.1%（2人）であったが、授業後は21.1%（4人）と、10ポイント増加しており、つぎはぎになっている道路は整備した方が良いと考える児童が増えた。（図：3.1.3参照）

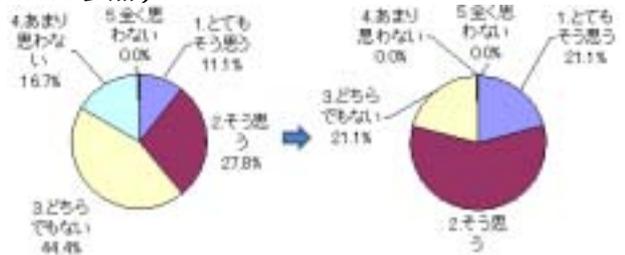


図 3.1.3：「つぎはぎになっている道路は、景観上良くない」の事前から事後のアンケート結果

### 3.1.4. 「ブロック塀は、生垣に変える」

「ブロック塀は、生垣に変える」は、「とてもそう思う」「そう思う」の両者で授業を受ける前は50.0%（9人）であったが、授業後は事後63.2%（12人）と、13.2ポイント増加した。

特に「とてもそう思う」の授業前は11.1%（2人）であったが、授業後は31.6%（6人）と、20.5ポイント増加しており、ブロック塀を生垣に変えるべきだと考える児童が増えた。（図：3.1.4参照）

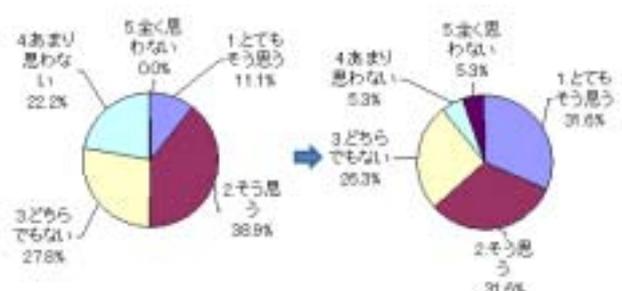


図 3.1.4：「ブロック塀は、生垣に変える」の事前から事後のアンケート結果

### 3.1.5. 「布師田の地域と合わない建物は、改修する」

「布師田の地域と合わない建物は、改修する」は、「とてもそう思う」「そう思う」の両者で授業を受ける前は55.5%（10人）であったが、授業後は72.2%（13人）と、16.7ポイント増加した。

特に「とてもそう思う」の授業前は22.2%（4人）であったが、授業後は44.4%（8人）と、22.2ポイント増加しており、地域の風景（景観）に合わない建物を周囲に合う形に改修すべきだと考える児童が増えた。（図：3.1.5参照）



図 3.1.5：「布師田の地域と合わない建物は、改修する」の事前から事後のアンケート結果

### 3.1.6. 「集落の風景（景観）に合わない建物は、周囲に合わせる」

「集落の風景（景観）に合わない建物は、周囲に合わせる」は、「とてもそう思う」「そう思う」の両者で授業を受ける前は27.8%（5人）であったが、授業後は57.9%（11人）と、30.1と大きくポイント増加した。

特に「とてもそう思う」の授業前は11.1%（2人）であったが、授業後は31.6%（6人）と、20.5ポイント増加しており、建物は風景（景観）に合わせるべきと考える児童が増えた。（図：3.1.6参照）

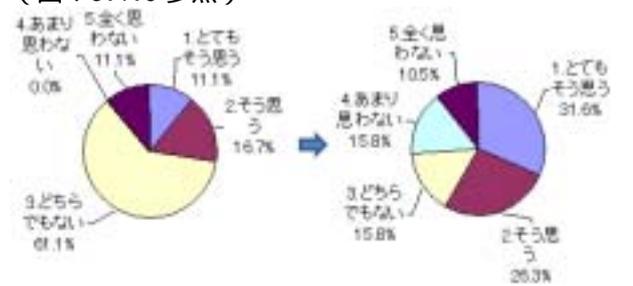


図 3.1.6：「集落の風景（景観）に合わない建物は、周囲に合わせる」の事前から事後のアンケート結果

### 3.1.7. 「緑（自然）は多いほうが良い」

「緑（自然）は多いほうが良い」は、「とてもそう思う」「そう思う」の両方で授業を受ける前は100.0%（18人）であったが、授業後は94.8%（18人）と、5.2ポイント減少したが選択人数には変化なし。

特に「とてもそう思う」の授業前は77.8%（14人）であったが、授業後は89.5%（17人）と、11.7ポイント増加しており、布師田地域により緑（自然）を増やすべきだと考える児童が増えた。（図：3.1.7 参照）

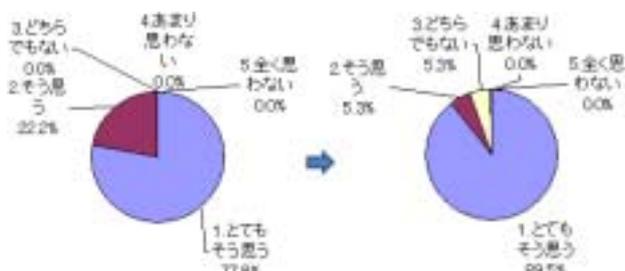


図 3.1.7: 「緑（自然）は多いほうが良い」の事前から事後のアンケート結果

### 3.1.8. 「風景（景観）について学ぶべきである」

「風景（景観）について学ぶべきである」は、「とてもそう思う」「そう思う」の両方で授業を受ける前は83.4%（15人）であったが授業後は100.0%（19人）と、16.6ポイント増加した。

特に「とてもそう思う」が66.7%（12人）、授業後は84.2%（16人）と、17.5ポイント増加しており、全児童が布師田地域の風景（景観）について学ぶべきだと考えるようになった。（図：3.1.8 参照）

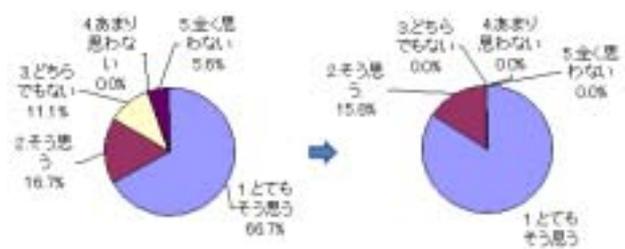


図 3.1.8: 「風景（景観）について学ぶべきである」の事前から事後のアンケート結果

## 4. 感想文からの結果

### 4.1. 第1回「風景と建築のデザイン」

#### 4.1.1. 授業で児童に与えた効果

##### 1) 良い風景と悪い風景のポイントを学んでいる

各ポイントをスライド写真によって具体的な例で説明を受けたことで、「奥行きのある風景」「季節を感じる風景は美しい」「人間が実物に似せて作っている物は美しくない」などの感想が多くあった。

このことから、児童は良い風景と悪い風景の見分ける基礎知識を学んでいることがわかった。

### 4.2. 第2回「まち歩きとまちなみ景観調査」

#### 4.2.1. 授業で児童に与えた効果

1) 良い風景と悪い風景を区別する判断が出来ている  
第1回「建築と風景のデザイン」で学んだ「スカイライン」や「奥行き」などを意識して調査したとの感想が多く記述されていたからである。

2) 共通の意識を持って調査することができた  
まち歩きで意見を交換して調査を行なったことで共通の意識を持つことができ、協調性が向上した。

3) 布師田の景観について関心を持つようになった  
授業を受けた児童のほとんどが「布師田の良い景観と問題点を知ることができて良かった」などの意識変化が見られたからである。

### 4.3. 第3回「まちなみ景観計画づくり」

#### 4.3.1. 授業で児童に与えた効果

##### 1) 貼り絵によって計画性が向上している

自分たちで悪い風景（景観）から良い風景（景観）に変えていく計画を立てるうちに布師田地域の風景（景観）をより良くするにはどうすればいいのかを考えるようになってきていることがわかった。

##### 2) 貼り絵による景観の変化に対する驚き

少しの改善でまちなみ景観が大きく変化することに驚き、自分たちでも変えることができることを学んでいる。

##### 3) 普段の生活で気付くことが増えた

普段の生活で気付かなかった風景（景観）の良いところや悪いところに多く気づくようになったという感想が多くあったからである。

## 5. 考察

アンケート結果と感想文から小学校景観出前授業を受けた児童には効果があったと言える。

その効果とは

- ・事前と事後のアンケート調査の質問の意味を授業を通じて理解している。
- ・児童自身が風景（景観）に対して興味を持ち、良い風景（景観）とはどういうものなのか具体的に考える意識が向上している。

などである。

よって、児童は景観に対する意識を強くするようになり、目的である「景観まちづくり学習」を、学校教育の中で活用できる子供を対象とした「景観まちづくりワークショップ」のモデルとしての機能を果たしている。

## 引用・参考文献

- ・嶋岡強太 2008「こどもを対象とした景観まちづくりワークショップのモデルの設計」（修士論文）